

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 97人 国語B 97人

② 数学A 97人 数学B 97人

5 留意事項

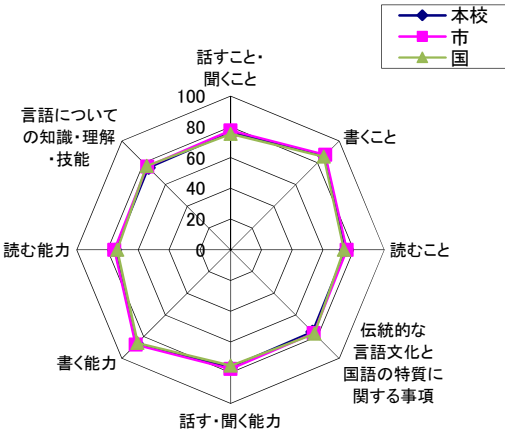
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

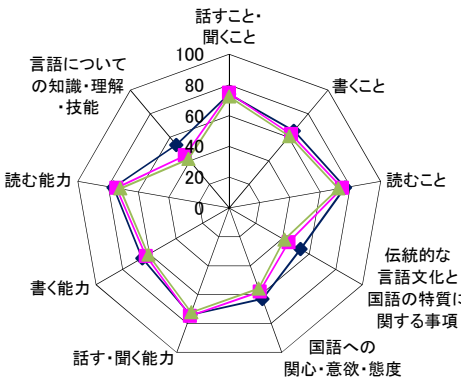
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.5	77.6	75.4
	書くこと	86.4	87.3	85.7
	読むこと	75.1	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.5	77.6	75.4
	書く能力	86.4	87.3	85.7
	読む能力	75.1	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	75.5	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.1	74.8	72.4
	書くこと	65.4	62.6	60.8
	読むこと	76.5	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.5	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	63.0	58.0	55.9
	話す・聞く能力	74.1	74.8	72.4
	書く能力	65.4	62.6	60.8
	読む能力	76.5	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	53.5	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

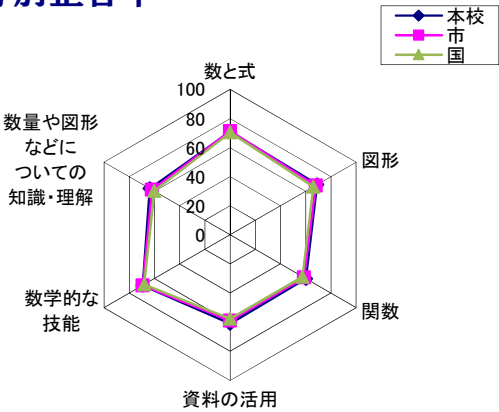
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話す・聞く」に関しては、ほぼ全国の平均を上回っている。特に、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す」ことに優れている。 ●「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」ことは、全国の平均を下回っている。	・総合的な学習の時間で行っている、「自分たちで調べたことを発表する学習活動」が功を奏していると考えられる。総合的な学習と国語科で行う指導とこれからも結びつけて進めていきたい。 ・一方通行の発表に留まらず、相手の考えを聞いて、それに対する自分の考えを持ち発表するという活動を意識的に取り入れていく。
書くこと	○「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」ことについて、全国の平均を12.1ポイント上回っている。 ●「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」の正答率が低い。	・小説、説明的文章、詩など様々な種類の文章を読み味わい、感想をノートに書き発表し合う等の活動を継続していく。 ・文章の練り上げの段階を強化する指導の工夫を行っていく。
読むこと	○「目的に応じて必要な情報を読み取る」が、全国の平均を8.2ポイント上回っている。 ●「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」ことが全国の平均を下回っている。	・文章の読み取りに加え、調査データなどの情報の読み取り作業を意識的に授業に盛り込んでいく。 ・小説、物語文の多角的読み取りを重視した授業展開を考え、実践していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きに関しては、ほぼ全国の平均を上回っている。「覚悟」の読みは正答率100%であった。 ●「助詞の働き」、「行書の特徴を理解する」、「古典には様々な種類の作品があることを知る」が全国平均を下回っている。	・1年生から「漢字学習帳」を活用し、それに伴った漢字の小テストを行っている成果だと考えられる。今後も継続していきたい。 ・文法は、確認プリントや練習問題を数多く活用していく。書写の知識を深める指導を丁寧に行っていく。 ・古典においては、読み取りはもちろんのこと、文学史的内容の学習も重視していく。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

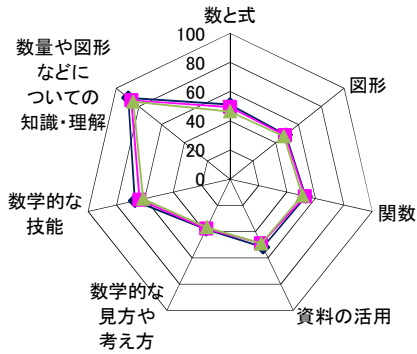
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	71.0	71.4	70.4
	図形	69.1	67.9	66.0
	関数	60.2	58.6	57.4
	資料の活用	60.9	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	69.4	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	63.7	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	51.2	49.4	46.3
	図形	48.8	48.3	47.1
	関数	53.2	52.7	50.8
	資料の活用	51.9	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.2	37.8	36.8
	数学的な技能	67.0	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	89.4	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○県や全国と比べて、数学Bの正答率が上回っている。正負の数や文字式などの単純な計算問題ができてきた。 ●文字式を交えた四則混合の問題では、67.7%と低い正答率になってしまっている。	・チームティーチングを有効活用し、個別指導を丁寧に行って、計算問題の理解を促す。 ・式を作り出す力はあるので、それをどのような手順で解いていくのかについて、丁寧な指導していく。
図形	○平行移動や空間図形における位置関係の問題では、県や全国平均を上回っている。 ●円柱の体積を求める問題では、46.5%と低く、県や全国と比べ、正答率は下回っている。	・平面、空間における位置関係を考える問題ができていたので、応用力に磨きかける指導を心がける。 ・文章問題では、無回答も多く見られた。問題文から、必要な情報を取り出すことを重点的に指導していく。
関数	○二元一次方程式と関数の問題では、県や全国よりも10%以上正答率が高い。全体的に見ても、県や全国を上回るものが多い。 ●関数の意味を理解しているかを問う問題では、正答率が15.2%と低く、県や全国と比べても4%下回っている。	・関数全般の基礎的内容が理解されていないようなので、基本原理の解説を更に丁寧に行う。 ・活用問題では、持っている知識を、どこで、どのように使っていくのかということを重点的に指導していく。
資料の活用	○反復横跳びの記録の範囲の問題では、県や全国と比べて15ポイントも上回った。同様に確からしいことの意味を知る問題でも高い正答率を得た。 ●度数分布表から相対度数を求める問題では、県や全国と比べて下回っている。	・基本的な考え方は身に付いていて、範囲や確率の問題もできていたので、それを表などに表す方法や日常生活に生かす考え方を伝え、定着させていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

・ほとんどの項目において、肯定的回答の割合が県や全国の割合より高いか同程度である。

○「朝食を毎日食べているか」、「毎日同じ時刻に寝ているか」などの規則的な生活に関する問いに対する肯定割合が高い。

○朝の読書の時間の取組が、図書館の使用率の高さに表れており、本に慣れ親しんでいる生徒の姿がうかがえる。

○総合的な学習の時間において、調べ学習や発表など自ら課題を設定し解決しようとする活動に、生徒が主体的に取り組む様子が見られる。

今後も、生徒の主体性を大切にしつつ、成功体験を重ねることで、自己肯定感を高められる学校行事や授業展開の工夫を図っていく。

●いじめはどんな理由があってもいけないことであると答えた生徒の割合は昨年同様90%を超えているものの、学校の規則を守っていると答えた生徒の割合は70%程度であった。

日常の生徒の様子に目を配り、道徳はもとより、各教科の学習や学級活動、学校行事等の学校生活全般において、適切な指導をしていくことを心がけ、規範意識の醸成に取り組んでいく。

●生徒たちは、社会で起きている問題や出来事に関心を持っている生徒が多いが、ニュースを新聞ではなく、スマートフォン等の機器を使って知る傾向が強い。時間的には半数近くの生徒が1時間以上、メールのやりとりやインターネットを利用して通信を行っている。宇都宮市の方針として、携帯電話等は持たせない方向で指導を継続していくが、すでに生徒に持たせている家庭も多いので、保護者会等の機会を捉えて、使い方のルールを決め、ルールを守った使い方を心掛けることや、ネットトラブルに巻き込まれないようにするとともに、巻き込まれたときの対処法等について、生徒への啓発を継続していく。

宇都宮市立城山中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における学習課題の提示	授業の初めに、本時の学習の課題を示し、「ねらい」を理解し、見通しを立てて学習に取り組めるようにしている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した割合が、昨年度と比べて約16ポイント増加し、90.9%であった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合い言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させるようにする。	「家で、学校の授業の予習をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は30.2%。「復習をしている」は77.8%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で予習をしている生徒の割合が30%と低く、県の平均より4.3ポイント低かった。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	地域学校園での合い言葉として取り組んでいることであり、小学校と連携して各家庭での理解を促し、自ら学ぶ姿勢を育てていく。